

「人間関係づくりの演習と道徳④」

～「創る活動」のすすめ～

土田 雄一

1 人間関係形成におけるプロセスの重要性

目指す人間関係は、「創造の関係」である。何かを創り出すときに形成される、相手の意見も認めながら目標達成に向けて、自分の意見も主張し、高め合う関係である。共同で作品等を創り出すときには、はじめからうまくいくわけではない。意見が対立したり、プランが行き詰まったりすることもあるだろう。集団

の人間関係づくりにおいては、そのプロセス(②)が重要。できた作品など(①コンテンツ)よりも、プロセスを大切にし、適切に教師が介入することがポイントなのである(左図)。

作品等 ①コンテンツ

②プロセス

※話し合い
試行錯誤
合意形成
調整など

2 「映画のチラシジグソー」でコミュニケーション力を育てる

①やり方

(準備) 映画のチラシを12ピースに切り、封筒に入れる。

- ・ 4～5人のグループで協力して、ジグソーパズルのように映画のチラシを復元させる。
- ・ 非言語で行う。(しゃべってはいけないルール)



非言語で行うことと全員がピースを動かすことがポイント。伝え合うことのむずかしさを体感できる。完成までのタイムを競うと楽しい。終わってから、観た映画の話もできる。

競うと楽しい。終わってから、観た映画の話もできる。

3年生以上なら十分できる簡単な演習である。

3 「創作映画チラシジグソー」で「創造の関係づくり」の第一歩に

教師が準備していた12ピースに切り分けた映画

のチラシを「子どもたちが作成する」のである。

「どの映画のチラシにするか」「どのように切り分けるか」などグループごとに作戦会議を設けるのがポイントである。そして、B5の映画チラシをグループ全員で12ピースに切り分け、別のグループにやってもらう。(12ピース以上にすると復元するのが困難になるケースもある)完成までのタイムを競い合うのも楽しい。創り出す楽しさと合意形成・協力の難しさをソフトに体験できる演習である。

「みんなでホールインワンづくり」(第100号で紹介)も効果的な活動であり、より高度である。

4 「ふりかえり」を大切に

「映画のチラシジグソー」を実施する目的・ねらいは何か。協力である。認め合う心の育成である。伝え合うむずかしさを実感することである。その観点において自分たちはどうだったのか、振り返るとよい。また、その他の気づきも伝え合える関係にしたい。演習では「うんうん。なるほど」と仲間話を聴くことも約束に加えると自然にできるようになる。

5 道徳授業との関連から

人間関係づくりの演習をどのように活用するか。次の二つの視点がある。

①資料への導入(内容の関連)

②価値への導入(ねらいに関連)

資料への導入としては、5年「11学級新聞作り」がある。ねらいは異なるが「会議で決めたこと」は「作戦会議で決めたこと」につながり、イメージしやすい。ねらいに関連するものとしては、5年の重点主題の「支え合う仲間」の「9まかせてみようよ」と「10みんなの劇」に関連する。4年では「22祭り日」「24協力調査隊」,「協力」の視点で、3年「9しごとチェンジ」「10係活動ダイヤモンド」に関連させて活用する方法もある。他の学年でも同様の視点で関連した活用ができる。※資料名・学年とも『ゆたかな心』(光文書院)より。